

さくら咲き 心地よいまち ずっとめぐろ

MEGURO

めぐろ区報



6 | 15 令和8年(2026年)
NO.2235



みなさんも

鳥の言葉がわかる。

『僕には鳥の言葉がわかる』
の著者



東京大学
先端科学技術研究センター准教授
鈴木俊貴さん

トシタカ

写真提供：鈴木俊貴

Main Contents

p.2・3・16 特集 動物言語学者 鈴木俊貴さんインタビュー
p.4 夏のイベント情報

p.12 みんなで遊ぼう! 移動児童館
p.15 その困り事、専門家に相談してみませんか

めぐろ区報への感想・要望を
ぜひお寄せください。
回答はこちらから >>>



特集
動物言語学者
鈴木俊貴さん
— interview —

みなさんも 鳥の言葉がわかる。



区鳥であるシジュウカラ、実は鳴き声で言葉
を話しているそう。今回は科学エッセイ『僕には
鳥の言葉がわかる』の著者である鈴木俊貴さん
に、鳥たちが生きる世界の奥深さや野鳥観察の
面白さについてお聞きしました。これを読めば、
あなたも「鳥語」が分かるかも？

すずきとしが
鈴木俊貴さん
東京大学先端科学技術研究センター准教授。動物行動学
の分野で鳥語研究に従事し、シジュウカラの音声コミュ
ニケーションに関する論文が世界的に評価される。令和4年
の国際行動生態学会で、新たな学問である「動物言語学」
を提唱。自身の研究をまとめた科学エッセイ『僕には鳥の
言葉がわかる』は発行24万部のベストセラー。

鈴木俊貴さん直筆サイン入りの『僕には鳥の言葉がわかる』を
抽選で5人にプレゼントします。詳細は15ページへ

図広報広聴課 (☎5722-9486、FM5722-8674)

双眼鏡をのぞいたら、 鳥たちの世界が分かり始めた

いきものたちへの尽きることのない興味
私は小さい頃からいきものが大好きで、姿形が自
分と全く違ういきものたちが、みんな一緒に地球で
暮らしていることを不思議に思っていました。「虫や
鳥たちは何を考えているのだろうか?」「世界をどう
見ているのだろうか?」そんなことを考えながら、カ
ブトムシやバッタなどを集めてずっと観察していま
した。単なる好奇心から生まれたこれらの疑問が、
実は学術的な問いだったことに気が付いたのは、
もう少し大人になってからでした。

好きが高じて、鳥語の研究者に
鳥を身近に感じるようになったきっかけは、高校生
の頃に双眼鏡を手に入れたことです。お年玉で
買ったので、せっかくだから活用しようと外で鳥た
ちを観察する日々が始まりました。双眼鏡を通して
自然界にいる鳥たちの自由な姿を見るのは、外か
らいきものを持ち帰って観察するのは大きな違い
があります。巣を作っていたり、子育てをしていたり。
そんな鳥たちを見ると、まるで自分が動物の世界へ
入り込んだかのような感覚になれるんです。そうして
野鳥観察にのめり込んだ私は、鳥たちをもっと深く
知るために研究者になりました。現在は鳴き声に焦
点を当て、鳥たちが話す「鳥語」について探究して
います。

1 シジュウカラの「鳥語」の例

| | |
|---------------------|--------------|
| ビビビビ | ツツピー ツツピー |
| | |
| 「顔をちょうだい」 (ヒナの声) | 縄張り宣言 |

鳴き声も、生き方も 野鳥観察は新発見の連続

鳥たちが創る新しい文化
鳥語研究をしていると、鳥に関する面白い発見や、
新たな視点にたくさん出会います。その一つが、
「シジュウカラは自らの知恵で生きる世界を広げて
いる」という事実です。目黒区に限らず、区内では
ここ50～60年でシジュウカラ
が増えていきます。きっとシジュ
ウカラの世界の中で、植木鉢
などの人工物をうまく利用して
生きていく文化が広まっている
のでしょう。鳥たちは植木鉢

に巣を作れることが本能で分かっているわけでは
ありません。生活の中で文化を生み出し、自分たち
の手で世界を変えています。これは私たちと
同じですよ。人間も鳥もおそらく他の動物たち
も、みんな同じように自分たちで文化を生み出し、
世界を変えているんです。

鳥語を読み解き、鳥たちの世界をのぞく
シジュウカラに関する新発見を語る上で、鳴き声の
話は欠かせません。実は、人間だけでなく鳥も言葉
を話しているんです。「ジャージャー」と鳴いたら「へ
び」、「ヒヒヒ」と鳴いたら「タカ」という具合に。さら
に、二つの鳴き声を組み合わせると文を作っている
ことも明らかになっています。「警戒しろ」を表す
「ピーツピ」、「集まれ」を表す「チチチチ」を組み合

2 シジュウカラの「鳥語」の例

| | |
|--------|-------|
| ピーツピ | チチチチ |
| | |
| 「警戒しろ」 | 「集まれ」 |

わせて「ピーツピ・チチチチ」と鳴き、「警戒して集ま
れ」と周りに伝えていることが分かりました。これま
で、鳴き声は単なる感情表現だと考えられてきまし
たが、鳥たちにはきちんと言葉を使って仲間とコ
ミュニケーションを取る力があるんです。まちを歩
いていてふと聞こえてくるさえずりも、もしかすると
「鳥語」なのかもしれません。

鳥たちは多言語話者
さらに鳥たちを観察していると、メジロとシジュウ
カラはお互いの言葉が分かるということに気が付
きました。違う種でも言葉が通じるのは、人間に例
えると多言語話者みたいで面白いですね。それ
ぞれ鳴き声は違っていても言葉が通じるという事
実が、混群(※)として生活する鳥たちの世界や生き
方を特徴づけていると感じます。
※異なる種の鳥が、一つの群れとなって行動すること

カラ類の仲間は他種であっても、 鳥語の意味を理解している

トリツツガムル

集まれ

コガラ ヤマガラ シジュウカラ

誰も体験していない「ワクワク」を探そう

動物たちの言葉を聞けば、 「いきものの見え方」が変わる

動物はみんな、言葉話しているのかも
動物たちのコミュニケーションを新しい視点から
研究するために、「動物言語学」という分野を創り
ました。現在はシジュウカラをメインに行動観察や
実験を行っていますが、もっと多くの動物が言葉
を話しているのではないかと考えています。だって、世
界には1万種を超える鳥類が存在するし、哺乳類も



提供：鈴木俊貴

5千種を超えている。ひょっとしたらカエルもしゃ
べっているかもしれません。言葉は人間だけのもの
であるという固定観念を取っ払い、動物言語学と
いう新しい枠組みから、いきものたちが話す言葉
についてさらに研究を深めたいと考えています。

自然をもっと身近に
これまで私たちは鳥たちが話していることに気が
付いていませんでした。先入観はもちろんですが、
身近な自然に目を向ける機会が減っているのも原
因の一つだと考えています。言葉は人間特有の能
力だと決めつけて、周りを見られなくなっている私
たちは、いわば「井の中の蛙(かわず)」です。動物
たちの言葉を聞き、その世界に気付くことができ
れば、自然とのつながりを取り戻すことができるは
ず。そうすれば、身近な環境問題に気が付き、解決
方法を思いつく、なんてことにつながるかもしれませ
ん。動物の言葉を研究することは、「蛙」となってし
まった人間を「救出する」ことにもつながると考えて
います。そのために、今後も広く社会に動物言語学
を発信し続けたいです。近々、『僕には鳥の言葉が

わかる』の子ども向けバージョンが出版されます。
小・中学生に興味を持ってもらうため、漢字に読み
仮名を振って読みやすくしました。鳥たちの世界を
知ること、子どもたちにもぜひ「ワクワク」を感じ
てほしいです。

実体験が世界を広げる鍵になる
都内にシジュウカラが増えてきている今は、まさに
絶好の野鳥観察チャンスです。まずは一つでいい
ので、シジュウカラ語を覚えて観察してみてください。
世界の解像度がぐっと上がる感覚を体験でき
るはず。最近では、気になったことはまずAI
(人工知能)に聞いてみるというかたが増えていま
すが、実際に経験することでしか分からないことも
あります。スマートフォンの画面上ではなく、自然
の中で自分なりの発見をし、「ワクワク」を体験して
ほしい。その第一歩として、私の発信が鳥の声に耳
を傾けるきっかけになればうれしいです。『僕には
鳥の言葉がわかる』の巻末には鳥の声が聞ける二
次元コードをつけているので、よければ聞いてみ
てください。

鈴木先生!

自然観察を楽しむコツを
教えてください!

Step 1 耳を澄ませて、
鳥たちの声を聞く

鳥を探すには、まず鳴き声に耳を澄ませましょう。双眼鏡
がなくても、鳥の声に耳を傾けることはできます。もし聞
こえたら、声がかかる方に向かってみてください。その先に鳥
たちがいた場合、どの鳥が鳴いているのか、何をしてい
るのかなどを観察することが大切です。実は鳥たち自身も、
まず鳴き声で他の鳥の存在を把握しています。鳥たちの声
を聞くことが、野鳥観察の第一歩です。

Step 2 鳥との程よい距離感を知る

観察に慣れてきたら、次は鳥との適切な距離感を意識して
みてください。鳥を見に行ったらすぐ飛んで逃げようと思
うかもしれませんが、それは一気に近づき過ぎたということ
です。野鳥観察も回を重ねると警戒されない距離感が徐々
に分かるようになってきます。大事なことは、自分が鳥を見
ている時、鳥も自分を見ているという認識を持つこと。そう
すれば、自然と程よい距離感がつかめるようになってきますよ。



16ページでシジュウカラを紹介しています。特集と併せてご覧ください